

2. 事業の概要と成果																										
(1) 上位目標	聴力障がい児童及び危険地帯に住む健常児童の双方が社会的な偏見、空爆や戦闘による心の傷から自らを守り、PTSD（心的外傷後ストレス障がい）の予防が可能になること。																									
(2) 事業内容	<p>1. 児童への心理社会的ケアの実践</p> <p>1-1. 心理社会的ケアクラスの運営</p> <p><u>心理社会的ケアクラス</u> 日曜日から水曜日まで毎日2クラス、合計8クラス開催。 被益児童は7歳から15歳までの120名。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 聴力障がい児童 5クラス56名 ・ 危険地帯居住児童 3クラス64名 <p>クラス割りは以下の通り。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>日</th> <th>月</th> <th>火</th> <th>水</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>クラス名</td> <td>Zohor</td> <td>Falastine</td> <td>Amal</td> <td>Saada</td> </tr> <tr> <td></td> <td>7～10歳 22名 危険地帯</td> <td>10～11歳 10名 障がい児</td> <td>11～12歳 14名 障がい児</td> <td>11～12歳 12名 障がい児</td> </tr> <tr> <td>クラス名</td> <td>Horyah</td> <td>Al Qds</td> <td>Sanaberi</td> <td>Hayah</td> </tr> <tr> <td></td> <td>9～13歳 22名 危険地帯</td> <td>14～15歳 8名 障がい児</td> <td>7～11歳 20名 危険地帯</td> <td>12～13歳 12名 障がい児</td> </tr> </tbody> </table> <p>2月2日よりクラス開始。1コマ90分のワークショップをこれまでに各クラス14コマ実施した。</p> <p>その内容は以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) オリエンテーションとアイスブレイク：2コマ 2) 描画・写真言語：8コマ 3) 粘土細工：4コマ <p>充実したファシリテーションを行う環境を整えるため、被益児童がケアクラスに馴染むようじっくり導入を行う必要があった。そのため、初段階である「描画・写真言語」を予定の倍の時間をかけて重点的に行った。これにより、当初のプロジェクトタイムテーブルよりも1ヶ月遅れが出ている。</p> <p><u>聴力障がい児童と危険地帯居住児童(健常児)の交流</u> 被益児童120名を2グループに分け、月に2回各2時間の統合クラスを開催している。聴力障がい児童と危険地帯居住児童が障害を超えて交流することで社会性を育むこと、お互いの抱える心の傷を分かち合うことがねらいである。2グループに分け、これまで各グループ5回開催し、屋外で集団活動を通して交流を行った。</p>		日	月	火	水	クラス名	Zohor	Falastine	Amal	Saada		7～10歳 22名 危険地帯	10～11歳 10名 障がい児	11～12歳 14名 障がい児	11～12歳 12名 障がい児	クラス名	Horyah	Al Qds	Sanaberi	Hayah		9～13歳 22名 危険地帯	14～15歳 8名 障がい児	7～11歳 20名 危険地帯	12～13歳 12名 障がい児
	日	月	火	水																						
クラス名	Zohor	Falastine	Amal	Saada																						
	7～10歳 22名 危険地帯	10～11歳 10名 障がい児	11～12歳 14名 障がい児	11～12歳 12名 障がい児																						
クラス名	Horyah	Al Qds	Sanaberi	Hayah																						
	9～13歳 22名 危険地帯	14～15歳 8名 障がい児	7～11歳 20名 危険地帯	12～13歳 12名 障がい児																						

グループ①：聴力障がい児童 36 名、危険地帯居住児童 22 名
(Zohor, Falastine, Amal, Saada クラス)

グループ②：聴力障がい児童 20 名、危険地帯居住児童 42 名
(Horyah, Al Qds, Sanaber i, Hayah クラス)

オープンデイ

期日：グループ① 4 月 18 日、グループ② 4 月 25 日

屋外広場、プール、ホールを備えた市外の余暇施設へ遠足に出かけた。いつもと違った環境の中、外遊び、集団遊び、プール、昼食を共にし、児童同士、児童とファシリテーターとのより一層の交流を図った。

1-2. 夏期キャンプの実施

期日：5 月 31 日～6 月 5 日

被益児童 120 名全員が集い、普段の活動場所を離れ市外の余暇施設にて開催。より一層のコミュニケーション能力の増進、自己の内面の洞察、そして心的外傷の理解と PTSD からの予防の能力向上を目指す。更に児童同士の友情を深め、ファシリテーターと児童との信頼関係をより密接にし、今後のケアクラスの充実につなげることがねらいである。毎日 6 時間、昼食をはさみ各種活動（工作、読み書き、演劇、集団活動、自由遊び、遠足）を行った。

1-3. 学校や家族との情報交換

ファシリテーターは、日々の活動として児童の生活環境や学校環境の情報収集や関係者と情報交換をし、児童の心のケアに役立っている。

- ・ 家族へ事業概要を説明、ケアクラスへの理解促進を図る
- ・ 家族への密な電話連絡
- ・ 学校行事への積極的な参加
- ・ 教員から児童の学校生活についての情報収集

2. 人材育成

2-1. ファシリテーター養成講座

今年度のファシリテーター養成対象は、カウンターパートであるエルアマル社会復帰協会 (El Amar Rehabilitation Society~ERS) の教員 4 名、ソーシャルワークを学ぶボランティア学生 1 名である。現地職員 5 名も上記被益者と共に講座を受け能力の強化を目指している。

	<p>これまで2回のセミナーを開催した。</p> <p>1) 1月26日 心理社会的ケア導入セミナー：桑山専門家 参加者：養成対象者5名、職員5名、ERS 役員と教員3名</p> <p>2) 4月10日 粘土細工WS実践セミナー：宗貞専門家 参加者：養成対象者5名、職員5名</p> <p>さらに、4月6日から5月1日までの4週間は、ワークショップの中で宗貞専門家が実技指導を行い、職員5名と養成対象者が指導や助言を受けた。</p>
(3) 達成された効果	<p><u>直接被益者：125人</u></p> <p>ケアクラス・夏季キャンプ 120人 ファシリテーター養成講座 5人</p> <p><u>間接被益者：約750人</u></p> <p>ケアクラス・夏季キャンプ 120人×5人(家族平均人数) = 600人 ファシリテーター養成講座 5人×30人(本事業外の担当生徒数) = 150人 他クラスで心理社会的ケアを実践することで得られると想定。</p> <p>1. 児童への心理社会的ケアの実践</p> <p>1-1. 心理社会的ケアクラスの運営</p> <p><u>児童の変化</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力の増大、グループワークに積極的に参加できるようになった。 ・周りの人の意見を真似てしまう傾向が改善され、より自己の内面を見つめながら表現活動を行うようになった。 ・自分の意見を述べる事、仲間の意見を受け入れる事ができるようになり、違った考えも分かち合い認め合う姿勢が生まれた。 ・ワークショップを通して深い洞察が得られ、思考が変化してきた。 ・ネガティブな感情とポジティブな感情を対比して表現させることを繰り返したことで、怒りなどネガティブな感情も前向きな思考に変わり、感情を整理できるようになった。 ・粘土細工について、初回は大半の児童が平面作品を作ったが、回を重ねるごとにみな立体造形ができるようになり、表現力が増した。 <p><u>聴力障がい児童と危険地帯居住児童(健常児)の交流</u></p> <p>聴力障がい児童と健常児とで分かれてしまう傾向が強かったが、5回目の統合クラス「宝探しゲーム」において初めて、児童が障害を越えて自然に交流・協力する様子が見られた。その後遠足を開催し、</p>

	<p>聴力障がい児童と健常児がより歩み寄るようになってきた。</p> <p>1-2. 夏期キャンプの実施</p> <p>終了直後であるため現時点では成果を提示できないが、バウムテストを利用して効果の測定を行っている。</p> <p>1-3. 学校や家族との情報交換</p> <p><u>ERS 教員よりケアクラス参加児童の変化の報告</u></p> <p>学校では反抗的で何を考えているのか分からず、教員の手に残っていた多動性障害の傾向がある聴力障がい児童A君。</p> <p>ケアクラスに参加するようになってから彼の態度が変わり、自ら教員に自分の成果品を見せに来るようになった。ケアクラスのファシリテーターの熱心な関わりのおかげで、彼は周りの大人を信頼するようになり、学校生活や授業態度も良い方向に変化していると、教員から報告を受けた。</p> <p>2. 人材育成</p> <p>2-1. ファシリテーター養成講座</p> <p><u>養成対象者の変化</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全員が心理社会的ケアのおもしろさを実感し、ケア以外の場面でも児童に対して管理的に振る舞うことを反省しつつある。 ・ 学生1名とERS教員1名については、自主的にケアクラスに参加するようになり、実践を通して学ぶ姿勢が顕著である。(週に2～3日程度定期的にボランティアとして参加している) <p><u>職員の変化</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ セミナーを通して職員の心理社会的ケアへの理解と実践力が増した。 ・ 児童の表現を導きすぎる傾向が強かったが、セミナー等で専門家の指導を受けたことにより改善した。 ・ 特に、宗貞専門家が4週間いたことで、ファシリテーターの姿勢というような細部まで勉強することができ、ケアクラスの充実に繋がっている。
<p>(4) 今後の見通し</p>	<p>1. 児童への心理社会的ケアの実践</p> <p>1-1. 心理社会的ケアクラスの運営</p> <p><u>心理社会的ケアクラス</u></p> <p>下半期で残る23コマのワークショップを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 粘土・針金細工：4週間 ・ 音楽ワークショップ：4週間 ・ 映画制作・演劇：15週間

(※7月の4週間は断食月のため、児童がケアクラスに通う事が困難であり活動を休止する。)

最終週に演劇発表会で120名の児童がケアクラスを卒業し、事業目標の達成を目指す。

聴力障がい児童と危険地帯居住児童(健常児)の交流

聴力障がい児童と健常児がより深く交流できるような働きかけを工夫し、集団活動を行う。

オープンデイ

下半期にも遠足を行い、児童間または児童とファシリテーターとの友情と信頼関係をより一層深め、今後のケアクラスの充実につなげる。

1-2. 夏期キャンプの実施

6月5日に実施完了。バウムテストの結果、集中した環境の中で培ったお互いの信頼関係、ファシリテーションについての反省を今後のケアクラスに生かす。

1-3. 学校や家族との情報交換

ファシリテーターは引き続き、児童の生活環境や学校環境の情報収集や関係者との情報交換を行う。

ケアクラス参加児童の両親に対し、心理社会的ケアの重要性と家庭での関わり合いについてセミナーを行う。講師は Gaza Community Mental Health Program (GCMHP) の心理学者 Dr. テイシール。

2. 人材育成

2-1. ファシリテーター養成講座

専門家を2名派遣しワークショップの指導を行う。

6月：5日間、桑山専門家の指導。

8月：2週間、石橋専門家の音楽ワークショップ指導。

更に、5名の養成対象者と5名の職員、ERS教員に対し心理社会的ケアセミナーを3回実施する。

6月：心理社会的ケアセミナー2（桑山）

8月：音楽ワークショップセミナー（石橋）

10月：演劇セミナー（予定）

以上の取り組みにより、受講者5名が心理社会的ケアをより深く理解し、それぞれの学校現場に生かせることを目指す。職員については専門性と実践力を確かなものにし、ケアクラスの充実と、次年度以降の新たなファシリテーター育成事業につなげる。